

茨木市立 庄栄小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成29年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	保幼小中で十八歳時点でのめざす子ども像を共通理解し、 子どもの発達課題に合わせた実践を行う。	- 保幼小中合同授業研（庄栄小） - それぞれの発達段階の理解 - 授業研、公開保育などへの参加 - 行事交流、授業参観 - 部活動体験 ・体験授業 - 授業スタンダードの交流 - 中学校区保幼小中連携カリキュラムの活用 ・給食交流会 - 中学校教員による出前授業 - 小中交流会	- 保幼小中合同授業研（三島小） - 学力保障につながる授業作り - 平成29年度の取組みの継続・見直し	- 保幼小中合同授業研（三島中） - 学力保障につながる授業作りの検証・改善 - 平成30年度の取組みの継続・見直し - 中学校区保幼小中連携カリキュラムの見直し
確かな学力の育成	豊かな表現力を育てる	- 算数科を通して豊かな表現力を育てる。 - 模擬授業を中心とした教材研究・研修会（算数科） - 問題解決的な学習 - 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人 - ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 - 図書館と連携した読書活動 - 読書タイム 読み聞かせ	- 教科を通して豊かな表現力を育てる。 29年度の総括を生かして授業を中心とした教材研究・研修会 - 問題解決的な学習 - 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人の改良 - ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 - 図書館と連携した読書活動 - 読書タイム 読み聞かせ	- 教科を通して豊かな表現力を育てる。 30年度の総括を生かして授業を中心とした教材研究・研修会 - 問題解決的な学習 - 班活動・ペア活動 「聞き方」「話し方」名人の改良 - ミニ学習会での職員のスキルアップ・ノート指導の研究・ICT活用 - 図書館と連携した読書活動 - 読書タイム 読み聞かせ
豊かな人間性を育む	豊かな人間関係づくり くもって知ろう自分のこと友だちのこと	- 異学年交流（児童会「七夕朝会」・あそびんびく・低中高学年での運動会の取組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団） - 平和学習（修学旅行など） - 国際理解教育（保護者と連携して） - 道徳の研究授業と校内研修会 - ひまわり学級との交流会 - いのちの学習（保健室と連携して） - あいさつ運動（三島中と連携して） - 実態交流会・ケース会議	- 異学年交流（児童会「七夕朝会」・あそびんびく・低中高学年での運動会の取組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団） - 平和学習（修学旅行など） - 国際理解教育（保護者と連携して） - 道徳の研究授業と校内研修会 - ひまわり学級との交流会 - いのちの学習（保健室と連携して） - あいさつ運動（三島中と連携して） - 実態交流会・ケース会議	- 異学年交流（児童会「七夕朝会」・あそびんびく・低中高学年での運動会の取組み・体育委員会「おにごっこ大会」・クリーン作戦・応援団） - 平和学習（修学旅行など） - 国際理解教育（保護者と連携して） - 道徳の研究授業と校内研修会 - ひまわり学級との交流会 - いのちの学習（保健室と連携して） - あいさつ運動（三島中と連携して） - 実態交流会・ケース会議
健康・体力の増進	いろいろな運動を経験して、 楽しむ心を育てる	- 茨木っこ運動（運動会） - マラソンタイム - なわとび・てつぼう・マラソンカード - ミニ研修会の実施 - 体育用具の整備・充実 - 保健委員会・給食委員会の活動 - 保健や給食だよりによる生活習慣の改善	- 茨木っこ運動（運動会） - マラソンタイム - なわとび・てつぼう・マラソンカード - ミニ研修会の実施 - 体育用具の整備・充実 - 保健委員会・給食委員会の活動 - 保健や給食だよりによる生活習慣の改善	- 茨木っこ運動（運動会） - マラソンタイム - なわとび・てつぼう・マラソンカード - ミニ研修会の実施 - 体育用具の整備・充実 - 保健委員会・給食委員会の活動 - 保健や給食だよりによる生活習慣の改善
支 援 教 育 の 充 実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
やや課題が残る結果であった
- ③ 読むこと
やや課題が残る結果であった
- ④ 言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ③ 短答式
良好な結果であった
- ④ 記述式
なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率がもっとも高かったのは、「漢字を正しく読む」問題、もっとも低かったのは、「手紙の構成を理解し、後付けを書く」問題であった。

無解答率がもっとも高かったのは、「漢字を正しく書く」問題であり、他の問題の無解答率は低かった。

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった
- ④ 言語事項
なし

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率がもっとも高かったのは、「文章全体の構成を考える」問題、もっとも低かったのは、「必要な内容を整理して書く」問題であった。

無解答率がもっとも高かったのは、「自分の考えをまとめる」問題であり、他の問題の無解答率は低かった。

分析

読み書きのできない一部の漢字は解答できないため、他より無解答率は高かったものの、全般的に漢字の読み書きや物語の読み取りなどはよくできていた。漢字の読み書きは日々の書き取り、学習の積み重ねによって力が伸びていると考えられる。また漢字の読み書き以外では無解答率も低く、最後まであきらめずに問題へ向かう姿勢も育っている。

一方で、今回の調査において正答率が低かったのは「手紙の構成を理解し、後付けを書く」「必要な内容を整理して書く」であることから、文章の要旨を読み取り、そこから自分の考えを展開させ表現することを苦手としている。自分の考えを表現することは、日常的に積み上げていくことが大切であるので、「自分の考えを書く・話す」作業や活動を今後も続けていく必要がある。

また、児童質問紙にもあるように、読書率が低いのも一因として考えられる。近隣に図書館もあるので、有効な活用方法などを模索し、読書する習慣をつけていく必要性がある。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
良好な結果であった
- ② 量と測定
良好な結果であった
- ② 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった
- ③ 記述式
なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率をもっとも高かったのは、「乗法で表すことができる二つの数量の関係」問題で正答率 100%、全員が正しく答えている。もっとも低かったのは、「二次元表の合計欄に入る数を求める」問題であった。

無解答率をもっとも高かったのは、「二次元表の合計欄に入る数を求める」問題であり、他の問題の無解答率は低かった。

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった
- ② 量と測定
良好な結果であった
- ③ 図形
良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

正答率をもっとも高かったのは、「数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現する」問題、もっとも低かったのは、「基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する」問題であった。

無解答率をもっとも高かったのは、「平均の求め方を記述する」問題であり、「平均を求める式を選択する」問題の無解答率は低かった。

分析

全体的な正答率が大阪府・全国平均を上回っていることから、基礎的な算数の学力の底上げはできつつあると考えている。また、国語同様に無解答率も低く、問題に対してあきらめない姿勢を見ることができ。4年次・5年次に算数については習熟度別分割授業をはじめ、少人数での指導を2か年続けてきた。その成果のあらわれと考えられる。

その一方で、苦手としている単元・領域もはっきりとしてきた。まずは、「割合」である。特に「単位当たり量」について苦手としており、これは2年生の掛け算から積み上げていく必要性を感じている。

次に「重さ・長さ」の問題である。単位を表す量感覚がとれていないと考えている。低学年のうちから、実際の長さ、重さを測るなど、実体験を伴う活動を取り入れることで、量感覚を養っていきたい。また、計算の正答率が5割程度であり、計算ミスが目立つ。計算力は日々の積み重ねなので、宿題や朝学習で積極的に取り組んで行きたいと考えている。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は年により多少の上下はあるが、徐々にあがってきている。
- ・特に算数 B については正答率がすこしずつ上昇している。
- ・無解答率の平均は全国の平均より低く、特に国語 B の無解答率が低かった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層については年度によって多少の上下がみられる。
- ・学力高位層については年度によってばらつきがあり、今年度は増えている。
- ・エンパワー層については年度によってばらつきがあり、上下がみられる。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

① 授業改善を図る。

- ・模擬授業を基本とした教材研究、校内研究授業、校内研修会、実践交流などを通じて、各教員の授業力を高める。また、ミニ研修を随時持ち、多様な学びの形態を習得しあう。
- ・授業のなかで、自分の意見や考えを述べ、他者の意見を聞き取り、比較し、練り上げる「問題解決」活動をより多く取り入れる。
- ・「コミュニケーション能力の育成」、今年度は特に「聞く力」「話す力」に着目して話し合い活動が充実するような取組みを、日常的に続けていく。
- ・「話し方名人」「聞き方名人」の項目を低・中・高学年別に設定し、教室に掲示する。6年間を通した系統立てた指導、力の育成を目指し、今後も子どもの実態に即した共通実践の設定や、検討、検証を進めていく。

② 基礎的な学力育成を図る。

- ・毎日の家庭学習を習慣づけ、家庭にも協力をよびかける。
- ・夏休み中の学習会や休憩、放課後の個別指導を続け、きめ細やかな指導を進める。
- ・問題解決学習を中心として、意欲を喚起し楽しいと思える授業づくりを推進する。
- ・授業のめあてを提示して、まとめて終わる授業を基本とし、ふりかえりを通じて子どもたちのつまずきに気がつくことのできる授業づくりを行う。
- ・単元や子どもたちの実態に応じ、習熟度別分割、単純分割、2クラス3分割、T・T 等の授業形式を選択し授業を進める。

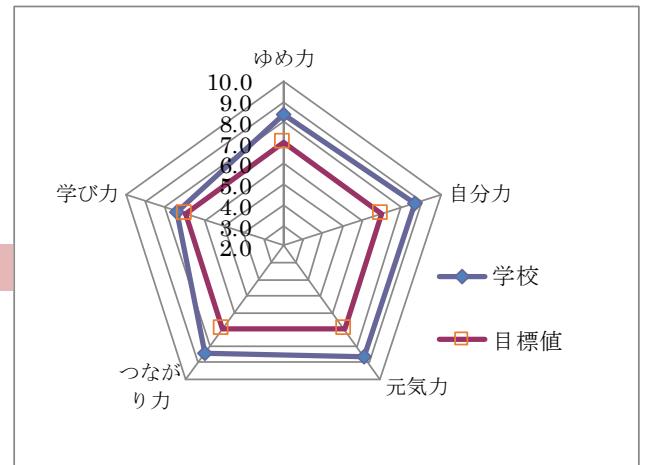
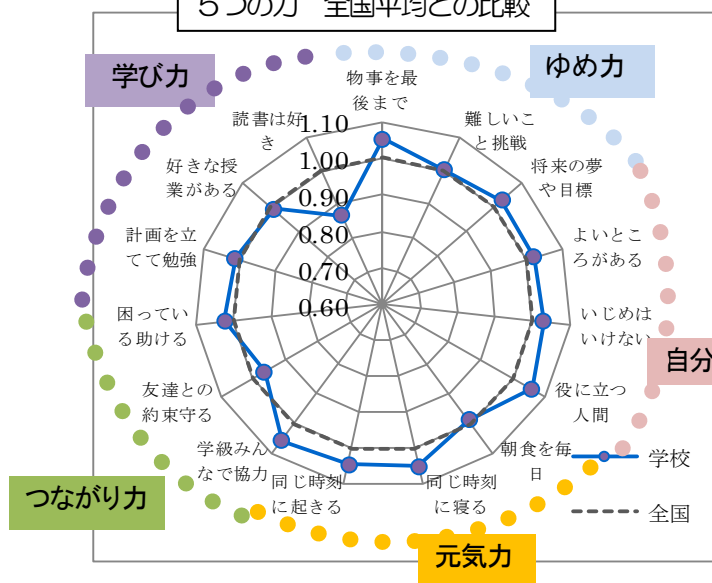
③ 読書活動の充実や表現力を高める活動の推進

- ・読書タイムの実施、図書ボランティアによる読み聞かせなど、本との出会いを充実させる。
- ・図書館支援員との連携のもと、足を運びたい図書室の環境整備を行うと同時に、各教科と連携した、読み物の紹介等、「本を手にとろうとする」取組みをいっそう推進していく。
- ・庄栄図書館との連携した取組みをすすめていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較

5つの力 目標値との比較



分析

- ・5つの力すべてが、目標値を超えていた。
- ・ゆめ力については、3つの項目について全国平均を上回っているが、粘り強く「難しいことに挑戦」していく力を育てていきたい。
- ・自分力については、3つの項目について全国平均を上回っているが、よりいっそう自己肯定感を育てていきたい。
- ・元気力については、「朝食を毎日食べる」の項目が若干ではあるが全国平均を下回っている。保護者にも朝食の大切さをより一層知らせていきたい。
- ・つながり力については、「友だちとの約束を守る」の項目が若干ではあるが全国平均を下回っている。道徳や生活指導などを通して指導していきたい。
- ・学び力については、「読書が好き」の項目が若干ではあるが全国平均を下回っている。よりいっそう本と出会う機会を多くして、読書の楽しさを広げていきたい。

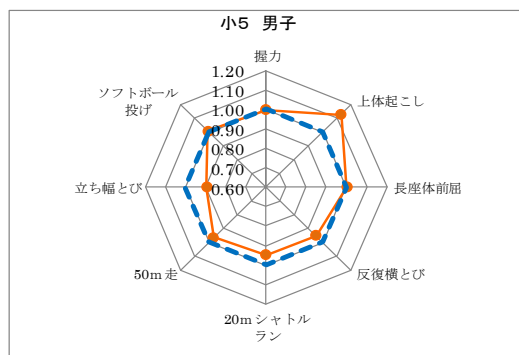
取り組み

- ・読書活動をより充実するために、学級での本の紹介や本の感想の交流、「よみきかせ」ボランティアや図書支援員、庄栄図書館との連携を通して本の楽しさをより広げて、学び力を育てる。
- ・授業において「聞く」「話す」に着目した話し合い活動や、自分の考えや意見を述べ、他者の意見を聞き取り、自分の意見や考えと比較し練り上げる「問題解決学習」に取り組み、コミュニケーション能力を育成してつながり力を育てる。
- ・異年齢交流（児童会活動や特別活動の七夕朝会、あそびんぴつく、クリーン作戦、応援団、給食交流など）、道徳教育の実践、人権教育推進部会の取組みなどを通して自分力やゆめ力を育てる。
- ・生活指導や食育教育の実践、保健指導などをおして規則正しい生活習慣の確立をはかり、「朝食を毎日食べる大切さ」を子どもたちや保護者にひろめ、元気力を育てる。

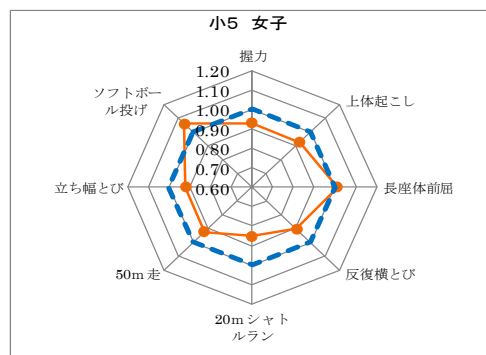
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

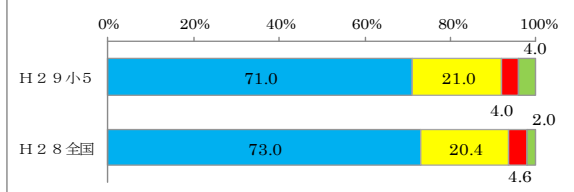
男子 (小5)



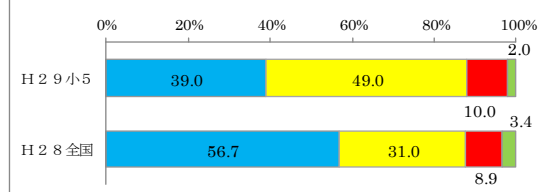
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ ややきらい
 ■ きらい

分析

- 男子は、「運動・スポーツが好き、やや好き」を合わせると92%でほぼ全国平均と同じである。種目については、握力・長座体前屈・ソフトボール投げが、全国平均とほぼ同じで、上体起こしが全国平均を上回っている。反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とびなどおもに脚力に課題がみられる。今後、持久力などを系統的に高めていく必要がある。
- 女子は、「運動・スポーツが好き、やや好き」を合わせると88%でほぼ全国平均と同じである。種目については、長座体前屈が全国平均とほぼ同じで、ソフトボール投げが全国平均を上回っている。握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とびに課題がみられる。今後、持久力・柔軟性・敏捷性などを系統的に高めていく必要がある。

取組み

- 本校は児童数に比べて広い運動場を有しており、体育館での体育の授業時間も保障されている。これらの資源を活かして、体育の授業をはじめとして、様々な運動を経験し、動きを身につけられるよう意識していく。
- 運動会では組体操の安全性を第一に考えながら、集団行動やダンスの要素を取り入れ、新しい集団演技を創造し、全般的な体力向上をはかる。
- 行事ごとの体操の場面に茨木っ子運動を取り入れて普及をはかる。
- 学級毎にボールや大縄を配り、休み時間に外で遊ぶことができる環境を整える。
- 運動場や体育館の体育用具を整備し、充実させる。
- マラソンタイムを設定して、全校で長距離を走る機会をもうける。
- なわとび・鉄棒・マラソンカードなどを活用して、子どもたちが自主的に体力向上に取り組めるようにする。